

実体経済の動向

◇生産・出荷とも大幅増加

(生産——大幅増加)

5月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比(注))は+1.6%(船舶を除くと+1.5%)と52年11月(+2.0%)以来の大幅増加を示した(前年同月比+8.0%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り、前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

5月の生産を財別にみると、非耐久消費財が小幅減少となったほかは各財とも軒並み増加した。

すなわち一般資本財はショベル系掘削機、機械プレスなどが減少したものの、電力投資関連の電力・通信ケーブル、標準変圧器のほか、複写機、クレーン、ベルトコンベアなど多くの品種で増産となったため、前月に引続いて増加した。資本財輸送機械は燃費効率の低い普通自動車が増加を続けたものの、トラック(軽、小型、全輪駆動など各車種)、小型自動車が大幅に増加したことから前月に引続いて増加した。

また生産財はBTX、有機薬品(エチレン、プロピレン)、プラスチック、合成ゴム等の石油化学製品が原材料手当て難などを背景に減産となったものの、鋼材(普通鋼冷延薄板、普通鋼広幅帯鋼)、非鉄加工製品(アルミ圧延品、伸銅製品)、自動車関連品(線ばね、自動車用鉛電池)、トランジスタなどを中心に2か月連続の増加となった。前月減少となった建設財も、セメント、アルミドア、スチールシャッターなどは減少したが、H形鋼、小形棒鋼、コンクリート二次製品(コンクリートパイル・管、護岸用コンクリートブロック)などが増加したため、全体では増加となった。

この間消費財では、耐久消費財は白もの家電(電子レンジ、洗濯機)、カラーテレビ、ステレオ等が小幅減産となったほかは、軽自動車、エアコン、時計、カメラを中心に大幅増加を示したが、一方、非耐久消費財は日用品(浴用石けん、家庭用薄葉紙)が増加したものの、揮発油などの減産が響き、全体では3か月ぶりに小幅減少となった。

(出荷——大幅増加)

5月の出荷(速報)は+2.6%(船舶を除くと+2.5%)と52年11月(+2.6%)以来の大幅な増加を示し

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

		53年				54年		
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業	指数	121.9	123.5	126.2	128.5	128.7	129.7	131.8
	前期(月)比	1.9	1.3	2.2	1.8	-0.5	0.8	1.6
	前年同期(月)比	6.0	6.9	7.7	7.4	6.6	6.8	8.0
投資財		1.9	1.4	3.2	1.9	-1.0	0.9	2.0
資本財		2.8	1.0	3.2	1.3	-1.9	2.5	2.1
同(輸送機械を除く)		4.3	0.1	5.3	2.6	-2.1	2.7	1.8
輸送機械		-0.8	1.1	-2.9	-2.2	-3.5	5.7	2.3
建設財		0.4	2.3	3.1	2.1	1.0	-1.5	0.7
消費財		1.8	1.4	1.7	1.4	0.3	0.7	1.4
耐久消費財		3.1	2.8	1.9	2.0	-0.2	0.6	4.6
非耐久消費財		0.6	0.6	1.4	1.0	0.6	0.4	-0.4
生産財		1.6	1.2	2.0	2.4	0.0	0.9	1.3

(注) 通産省調べ。54年5月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

		53年				54年		
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業	指数	120.2	121.7	124.1	126.9	126.8	127.5	130.8
	前期(月)比	1.1	1.2	2.0	2.3	-1.0	0.6	2.6
	前年同期(月)比	5.9	6.6	6.5	6.7	5.5	6.8	8.6
投資財		0.7	1.5	2.3	2.5	-3.7	-0.2	5.2
資本財		0.5	1.6	1.9	3.0	-4.9	-1.3	7.8
同(輸送機械を除く)		3.4	1.3	4.0	3.8	-4.2	0.0	5.9
輸送機械		-3.2	1.1	-2.5	1.0	-4.5	-2.3	8.8
建設財		1.0	1.9	3.4	0.8	-1.5	1.4	1.1
消費財		0.1	1.6	0.4	2.8	-0.5	0.9	1.1
耐久消費財		1.1	2.5	-0.1	3.0	-1.1	3.5	0.4
非耐久消費財		-0.7	0.9	1.0	2.4	-0.5	-0.4	1.4
生産財		1.7	0.8	2.6	2.3	0.3	0.7	1.7

(注) 通産省調べ。54年5月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

た(前年同月比 +8.6%)。

5月の出荷を財別にみると、一般資本財、生産財が著増となったのをはじめ、各財とも軒並み増加した。すなわち一般資本財は農業用機械(コンバイン)、印刷機械等が減少したものの、官公需関連の装軌式トラクタ、ショベル系掘削機、圧縮機・送風機、ベルトコンベア、電力投資関連の標準変圧器、電力・通信ケーブルが前月までの伸び悩みの反動もあって大幅増加となったほか、金属加工機械(機械プレス)、電動工具、クレーンなども増加したため、前月横ばいのあと著増となった。資本輸送機械は普通自動車が増加したものの、小型自動車、トラックが大幅増加となったことから、2月(+7.9%)以来3か月ぶりに増加した。

生産財は、非鉄地金(電気銅、アルミ)、繊維原料(テレフタル酸、カプロラクタム)が減少した反面、石油製品(ナフサ、揮発油)、石油化学製品(ベンゾール、キシロール、ステレンモノマー、エチレン)が前月減少のあと大幅増加となったほか、鋼材(普通鋼冷延鋼板、鋼板、鋳鍛品)、非鉄加工製品(銅電線、アルミ圧延品)、自動車関連品(線ばね、強化ガラス)などが増加したため、53年7月以来11か月連続の増加となった。

また建設財は、セメント、H形鋼が出荷減となったものの、小形棒鋼、建設用金属製品(鉄骨、アルミサッシ)、板ガラスなどを中心に前月に引続き増加した。

この間耐久消費財は、前月著増の冷蔵庫、エアコンが減少したものの、軽自動車が増大となったほか、小型自動車も出荷増を続けたため、2か月連続の増加となった。また非耐久消費財は、揮発油、繊維二次製品(敷物)を中心に3か月ぶりに増加に転じた。

(在庫——前月横ばいのあと再び減少)

5月の生産者製品在庫(速報)は-1.1%と前月横ばいのあと再び減少し、同在庫率指数(50年=100)も75.0と49年2月(70.1)以来の低水準となった。

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	53年 (期末)			54年 (期末)	54年		
	6月	9月	12月	3月	3月	4月	5月
鉱 指 数	102.5	101.7	102.1	102.2	102.2	102.2	101.1
工 前期(月)末比	-1.2	-0.8	0.4	0.1	-0.3	0.0	-1.1
業 前年同期(月)末比	-3.4	-4.1	-2.9	-1.5	-1.5	-1.2	-2.1
投 資 財	-3.0	-2.2	0.0	2.8	1.2	-0.2	-0.2
資 本 財	-3.5	-5.6	0.2	-0.1	-0.3	2.4	0.6
同 (輸送機械を除く)	-5.1	-5.8	0.2	3.2	1.6	0.2	0.0
輸 送 機 械	-2.8	-4.2	-0.6	-3.9	-3.6	5.8	1.1
建 設 財	-1.7	1.3	0.2	6.3	2.1	-3.2	-1.0
消 費 財	2.0	0.7	5.6	0.2	0.0	-0.7	-1.7
耐久消費財	3.4	0.0	7.1	6.0	2.7	-1.1	2.3
非耐久消費財	1.2	1.2	3.8	-4.9	-2.2	-0.7	-4.6
生 産 財	-2.4	-0.9	-2.1	-1.9	-1.4	0.3	-1.2

(注) 通産省調べ。54年5月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

5月の在庫動向を財別にみると、資本財、耐久消費財を除き各財とも減少した。

すなわち、一般資本財は装軌式トラクタ、圧縮機・送風機が出荷増加に伴い減少したものの、金属加工機械(機械プレス)、複写機、農業用機械(動力耕運機、コンバイン)などが増加したため、全体では前月比横ばいとなった。資本財輸送機械はトラックが在庫減となったものの、小型自動車、普通自動車を中心に2か月連続の増加となった。

耐久消費財はエアコン、カラーテレビ、二輪自動車が引続き減少したものの、軽自動車が増増のほか、小型自動車、時計、白もの家電(洗たく機、冷蔵庫)が増加したため、前月減少のあと再び増加した。

一方生産財は鋼半製品、普通鋼冷延鋼板、非鉄加工製品(アルミ圧延品、伸銅製品)、機械構成品(鍛工品、汎用内燃機関、トランジスタ)、綿糸が増加した反面、石油製品(ナフサ、揮発油、C重油)、石油化学製品(BTX、ステレンモノマー、エチレン)が大幅減少となったため、前月微増のあと再び減少した。

建設財はH形鋼、コンクリート二次製品(コン

クリートパイル、コンクリート管)が増加したものの、出荷好調の小形棒鋼、建設用金属製品(アルミサッシ、アルミドア)が引続き在庫減となったため2か月連続の減少となった。

この間非耐久消費財も石油製品(揮発油、液化石油ガス等)、繊維二次製品(敷物)などを中心に4か月連続の在庫減となった。

(設備投資——機械受注<船舶、電力を除く>は反動減)

5月の一般資本財出荷(速報)は、前月横ばいのあと+5.9%の大幅増加となった。

品目別には、民間設備投資関連の金属加工機械、電動工具、非標準三相誘導電動機などが増加したほか、公共投資関連の土木建設機械(装軌式トラクタ、ショベル系掘削機)、圧縮機・送風機、ベルトコンベアや電力投資関連の電力・通信ケーブル、産業用電気機械が前月までの伸び悩みの反動もあって大幅増加となった。

5月の機械受注(178社ベース)は、船舶、電力を除く民需で-23.3%と前月大幅増加(+32.3%)の反動から減少した(民需全体でも-16.4%と減少)が、前年同月比では+18.2%となお高水準を続けている。

業種別にみると製造業からの受注は、鉄鋼が2か月連続の増加となったが、機械、自動車、化学、繊維など多くの業種で前月著増の反動減がみられたため、-29.9%(前年同月比+22.3%)の減少と

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	53年			54年		
	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	3月	4月	5月
民 需	4,702 (10.4)	4,697 (-0.1)	5,249 (11.7)	6,320 (31.8)	6,085 (-3.7)	5,085 (-16.4)
同 (船舶・ 電力を除く)	3,252 (3.8)	3,607 (10.9)	3,475 (-3.7)	3,571 (4.3)	4,726 (32.3)	3,627 (-23.3)
製 造 業	1,617 (6.8)	1,754 (8.5)	1,701 (-3.0)	1,659 (-3.5)	2,599 (56.7)	1,821 (-29.9)
非製造業	3,101 (13.4)	2,945 (-5.0)	3,479 (18.2)	4,527 (49.5)	3,548 (-21.6)	3,204 (-9.7)
同 (船舶・ 電力を除く)	1,646 (1.9)	1,868 (13.5)	1,774 (-5.1)	1,911 (12.4)	2,161 (13.1)	1,831 (-15.3)

(注) 経済企画庁調べ(なお5月から178社ベースで公表、計数は通及訂正済み)。カッコ内は前期(月)比増減(率) (%)。

なった。また非製造業からの受注(船舶、電力を除く)は、前月大幅増加となった建設の反動減を主因に-15.3%(前年同月比+15.4%)と減少した。なお船舶、電力を含んだベースでみても運輸が船舶の発注集中から大幅増加となったものの、主力電力が減少を続けたため、前月比-9.7%(前年同月比+18.1%)の減少となった。

なお、この間官公需は電電公社、防衛庁に加え、地方公共団体からの発注増もみられたため、+18.7%(前年同月比+24.6%)と大幅増加を示した。

◇5月の小売商況は堅調を持続

5月の都内百貨店売上高(百貨店協会調べ)は+0.3%と前月かなりの増加(+1.8%)のあと続伸した(前年比+5.3%)。

品目別にみると、衣料品の伸びがやや鈍ったものの、家具、リビング用品、スポーツ・レジャー用品等は高い伸びを続けた。

主要耐久消費財の販売状況を見ると、6月の乗用車新車登録台数(軽を除く)は、前月大幅増加(+9.5%)の反動減もあって-11.1%と大幅減少(前年同月比+1.8%)。

車種別にみると、大・中型車、小型車は伸び悩んでいるが、大衆車はニューモデル車を中心に伸長をみている。家電製品等では、空梅雨の影響もあって、エアコンが爆発的な売行きとなった昨年をも上回る荷動きを示しているほか、白もの家電、カラーテレビ、ステレオ等も買替え需要を中心に好調な売行きとの業界の感触である。

◇商況の基調——石油関連品目を中心に続騰

6月の商品市況を見ると、天然繊維(綿糸、毛糸、生糸)や鋼板類(厚板)が需要の一服や輸入玉の流入増などから軟化を示し、非鉄地金(銅、鉛、亜鉛)も騰勢一服となったが、石油製品や製材・合板が大幅な値上りを示したほか、前月軟化した棒鋼も再び反騰し、石油関連の化学製品も強含みで推移するなど、総じて上伸基調を続けている。

これは、①原油、ラワン丸太等を中心に海外原材料品価格が続伸しているうえ、海上運賃の上昇

もあって輸入原材料コストが上伸基調が続けていること(石油製品、化学製品、木材、合繊)、②このためメーカー筋では総じて製品価格引上げ意欲を強めており、需給堅調を背景として値上げが浸透をみつつあること、③こうした状況下、一部の流通・ユーザー筋では、価格先高観が強く供給削減に対する不安感もある石油製品、製材・合板等について在庫手当てを積極化する動きをみせたこと、などによるものである。

(卸売物価——統騰)

6月の卸売物価は+1.3%と前月(+1.6%)に続き大幅な上昇を示し、前年同月比では+5.2%となった。

品目別には、石油製品(ガソリン、灯油、C重油等)が原油価格上昇の影響から大幅に上昇した

ほか、製材・木製品(ラワン丸太、米つが材、合板)が海外産地高等を映じて騰勢を一段と強めた。

(消費者物価——6月<東京都区部、速報>は小幅下落)

6月の消費者物価(東京都区部、速報)は季節商品の値下りから前月比-0.3%と小幅下落を示したが、前年同月比では+3.7%と5か月ぶりに3%台の伸びとなった。

これは灯油、ガソリンなどの石油関連品や夏物衣料が値上りしたこと、空梅雨の影響もあって野菜、果物等季節商品の値下りが、前年に比べ小幅にとどまったこと、国鉄運賃改訂(5月20日実施)が当月の消費者物価に計上されたこと、等によるもの。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(前月<期>比・%)

	ウェイト	54 年		54 年					
		1～3 月平均	4～6 月平均	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
総 平 均	1,000.0	1.9	4.1	0.6	0.9	0.9	1.7	1.6	1.3
食 料 品	140.9	0	1.0	- 0.4	0.3	0.2	0.5	0.3	0.3
非食料農林産物	18.9	11.4	10.7	5.3	2.9	1.7	2.6	5.0	6.7
繊維製品	62.9	2.0	1.2	0.7	0.7	0.4	0.4	0.4	0.3
製材・木製品	33.6	7.9	6.6	5.7	1.1	- 0.3	0.9	4.1	7.6
パルプ・紙・同製品	28.9	2.3	6.0	0.4	0.6	3.4	2.7	1.1	0.2
金 属 素 材	12.6	15.6	8.1	5.4	6.2	3.4	3.3	0.3	0.6
鉄 鋼	80.7	1.8	2.3	0.4	0.4	0.6	0.9	0.9	0.6
非鉄金属	26.1	10.2	10.5	2.6	7.5	3.7	3.6	1.8	1.7
金属製品	37.0	0.6	0.7	0.3	0.5	0.2	0.3	0.2	0.1
電気機器	73.3	0.6	0.7	0.1	0.3	0.3	0.2	0.2	0.1
輸送用機器	74.0	0.3	0.6	0	0	0.3	0.4	- 0.1	0.1
一般・精密機器	95.7	0.7	1.1	0.2	0.2	0.4	0.6	0.4	- 0.1
化学製品	91.1	1.3	7.7	0.2	0.5	2.1	4.2	2.0	1.2
石油・石炭・同製品	102.2	2.7	14.4	0.5	1.5	2.6	4.3	8.6	4.3
窯業製品	30.5	2.7	1.5	0.2	2.6	0.2	0.4	0	0.2
電力・ガス	25.5	0.6	10.0	0.3	0.1	0.3	9.3	0.3	0.6
雑 品 目	66.1	1.4	3.2	0.3	0.7	0.5	1.3	1.0	1.7
工 業 製 品	816.4	1.6	3.1	0.6	0.8	0.8	1.2	1.1	1.2
大企業性製品	579.9	1.2	3.0	0.3	0.6	0.9	1.3	1.0	0.8
中小企業性製品	214.6	2.1	2.8	1.0	0.8	0.5	0.8	1.1	1.8
非工業製品	158.1	3.9	7.9	0.7	1.7	1.4	2.9	4.0	2.1

(注) 日本銀行調べ。

消費者物価指数の推移

(前月<期>比・%)

		ウェイト	54 年		54 年			最近月の 前年同月比
			1～3月 平 均	4～6月 平 均	4 月	5 月	6 月	
東 京	合	100.0	- 0.2	2.2	1.3	0.9	*- 0.3	* 3.7
	季節商品を除く総合	91.9	0.1	2.0	1.0	0.7	0.4	3.7
	(季節商品)	(8.1)	(- 2.9)	(4.6)	(3.8)	(2.6)	*- 7.8	(* 4.0)
	食料	40.1	- 0.6	1.0	0.7	0.6	*- 1.5	* 1.6
	住居	11.1	2.0	1.4	0.6	0.9	0.1	5.9
	光熱	4.2	- 0.1	8.3	7.7	0.1	1.4	1.1
	被服費	12.4	- 1.8	1.8	- 1.2	2.7	1.1	4.1
全 国	雑費	32.2	0.3	3.2	2.1	0.5	0.4	5.6
	合	100.0	- 0.3	...	1.4	1.0	...	3.1
	季節商品を除く総合	91.7	- 0.1	...	1.1	0.9	...	2.9
	(季節商品)	(8.3)	(- 2.3)	(...)	(4.3)	(1.9)	(...)	(4.6)
	特殊分類							
	農水畜産物	16.3	- 1.3	...	1.7		...	
	工業製品	46.6	- 0.8	...	0.6		...	
	うち大企業性製品	21.4	- 0.2	...	0.8		...	
	中小企業性製品	25.2	- 1.3	...	0.5		...	
	サービス	33.6	0.7	...	2.2		...	

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. *は速報。

◇総合収支赤字は縮小

5月の総合収支をみると、貿易収支黒字幅の縮小から経常収支は前月を上回る赤字となったものの、長期資本収支の流出超幅が大幅に縮小したため、総合収支では赤字幅をかなり縮小(前月赤字2,973百万ドル→当月同754百万ドル)した。

経常収支は、輸入が季節性を映じ一段と増加したことから、貿易収支が黒字幅をかなり縮小(前月黒字510百万ドル→当月同53百万ドル)したのに加え、貿易外収支が運輸関係の支払い増等から、赤字幅を拡大したため、赤字828百万ドルと前月(赤字258百万ドル)を上回る赤字となった。

長期資本収支は、本邦資本が外債債券投資の大幅減や対外直接投資の減少等から、流出超幅をかなり縮小したのに加え、外国資本も大口直接投資や対内債券投資の流入から、流入超に転じたため収支じりでは1,234百万ドルの流出超と前月(流出超2,151百万ドル)を大幅に下回る流出超。

一方、短期資本収支は、対外短期証券投資が採

算悪化や国内CD発行の影響等から大幅処分超となったことを主因に321百万ドルの流入超(前月流出超135百万ドル)。

なお、5月の貿易収支を季節調整済み計数でみると、輸出(8,378百万ドル)は、船舶、鉄鋼、自動車等の増加を主因に+7.0%と大幅に増加した一方、輸入は、羊毛、鉄鉱石等の減少を映じて-0.4%と5か月ぶりに減少、この結果、収支じりでは848百万ドルと黒字幅を拡大した(前月黒字267百万ドル)。

この間、外貨準備高は24,192百万ドルと4か月連続して減少した(前月末比1,915百万ドルの減少)。

(輸出——大幅増)

5月の輸出(国際収支ベース)は前月比+7.0%と前2か月連続減少のあと、大幅増加となった(原計数の前年同月比では+7.1%)。

品目別(通関ベース)にみると、重電機器、二輪自動車、事務用機器等が減少したものの、船舶が

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	53 年		54 年	54 年			前年 5 月
	7～9 月	10～12月	1～3 月	3 月	4 月	5 月	
経 常 収 支	5,146	2,838	△ 711	489	△ 258	828	634
貿 易 収 支	7,351	4,958	1,690	1,487	510	53	1,327
輸 出	24,730	26,096	22,891	9,262	7,810	8,133	7,595
輸 入	17,379	21,138	21,201	7,775	7,300	8,080	6,268
貿 易 外 収 支	△ 2,051	△ 1,912	△ 2,054	△ 782	△ 698	△ 799	△ 592
移 転 収 支	△ 154	△ 208	△ 347	△ 216	△ 70	△ 82	△ 101
長 期 資 本 収 支	△ 4,019	△ 5,090	△ 3,570	△ 2,404	△ 2,151	△ 1,234	△ 1,406
本 邦 資 本	△ 3,367	△ 5,102	△ 4,654	△ 2,480	△ 1,832	△ 1,286	△ 1,117
外 国 資 本	△ 652	12	1,084	76	△ 319	52	△ 289
基 礎 的 収 支	1,127 (581)	△ 2,252 (△ 2,986)	△ 4,281 (△ 3,399)	△ 1,915 (△ 2,696)	△ 2,409 (△ 2,652)	△ 2,062 (△ 1,267)	△ 772 (△ 154)
短 期 資 本 収 支	664	687	264	169	△ 135	321	489
誤 差 脱 漏	△ 146	234	714	178	△ 429	987	170
総 合 収 支	1,645	△ 1,331	△ 3,303	△ 1,568	△ 2,973	△ 754	△ 113
金 融 勘 定	1,645	△ 1,331	△ 3,303	△ 1,568	△ 2,973	△ 754	△ 113
外 貨 準 備 増 減	1,909	3,779	△ 4,206	△ 3,874	△ 2,706	△ 1,915	183
そ の 他	△ 264	△ 5,110	903	2,306	△ 267	1,161	△ 296
外 貨 準 備 高	29,240	33,019	28,813	28,813	26,107	24,192	27,709
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 12,060	△ 15,371	△ 15,620	△ 15,620	△ 15,826	△ 14,803	△ 12,920

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
53 年 7 ～ 9 月	8,122 (+ 4.9)	5,853 (+ 6.5)	2,269	8,381 (+ 6.0)	6,698 (+ 6.2)	5,500 (+ 2.7)	8,421 (+ 3.5)	6,933 (+ 7.7)
10 ～ 12 ヶ	8,348 (+ 2.8)	6,940 (+ 18.6)	1,408	8,495 (+ 1.4)	7,263 (+ 8.4)	5,678 (+ 3.2)	8,679 (+ 3.1)	7,630 (+ 10.1)
54 年 1 ～ 3 月	8,084 (- 3.2)	7,226 (+ 4.1)	857	8,165 (- 3.9)	7,937 (+ 9.3)	5,853 (+ 3.1)	8,374 (- 3.5)	8,230 (+ 7.9)
54 年 2 月	8,210 (+ 4.6)	7,208 (+ 3.2)	1,002	8,146 (+ 1.2)	8,003 (+ 4.0)	5,797 (+ 1.5)	8,626 (+ 6.2)	8,247 (+ 2.3)
3 ヶ	8,191 (- 0.2)	7,485 (+ 3.8)	706	8,299 (+ 1.9)	8,115 (+ 1.4)	6,054 (+ 4.4)	8,377 (- 2.9)	8,380 (+ 1.6)
4 ヶ	7,829 (- 4.4)	7,562 (+ 1.0)	267	7,749 (- 6.6)	8,390 (+ 3.4)	6,104 (+ 0.8)	8,436 (+ 0.7)	8,440 (+ 0.7)
5 ヶ	8,378 (+ 7.0)	7,530 (- 0.4)	848	8,526 (+ 10.0)	8,328 (- 0.7)	6,337 (+ 3.8)	8,971 (+ 6.3)	9,145 (+ 8.4)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
2. カッコ内は対前期(月)比増減(－)率(%)。
3. 輸出信用状接受額および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

大幅増となったほか、自動車、鉄鋼も米国向けを中心にかなりの伸びを示した。

6月の信用状接受高(季節調整済み前月比)は+3.6%と6か月連続して増加。これを品目別に見ると、鉄鋼が減少したものの、繊維製品、自動車がかなりの増加となった。

(輸入——微減)

5月の輸入(国際収支ベース)は前月比-0.4%

と5か月ぶりに小幅ながら減少した(原計数の前年同月比では+28.9%)。

品目別(通関ベース)にみると、原油、木材、非鉄金属鉱等が価格の上昇を主因に増加したものの、羊毛、鉄鉱石、鉄くず等が減少した。

6月の輸入承認届出額(特殊大口除外、季節調整済み前月比)は-7.0%と1年3か月ぶりに減少した。